



もいわ南麓

第77回 卒業式式辞

3年生の皆さん、卒業おめでとう！心から皆さんのご卒業を祝福します。

本日、保護者の皆様と共に、第77回卒業証書授与式を盛大に挙行できますことを大変嬉しく思います。本日は、普段から皆さんのことを温かく見守ってくださっている齊藤PTA会長様をはじめPTA役員の方々、学校評議員の皆様にご臨席いただきました。1、2年生や地域の皆様も離れた所から、お祝いして下さっていることと思います。

今、皆さんは、卒業証書を手にして、義務教育を終えようとしています。先日の卒業式事前学活の資料には、「卒業式は儀式であると同時に、最後の授業です」とありました。この式が終わって教室に戻ったら、担任の先生から最後の言葉・授業があります。その前に、私から3分程度の授業をしたいと思います。「失敗」の定義、「失敗とは何か？」を考えたいと思います。

「失敗」を「成功の対義語」という考え方もできますが、「失敗は成功のもと」とよく言われます。失敗を恐れて「何も行動しない」のでは、成功はありません。失敗を重ねるからこそ、成功した時に大きな喜びを感じられるのです。

晴れの卒業式で、「失敗」について考えるのはふさわしくないと考えたかもしれません。しかし、皆さんのこれからの長い人生では、誰もがつまずくことがたくさんあると思います。でも、つまずくたびに、人は立ち直る強さももっています。失敗を恐れず、多くのことに挑戦し続けてほしいと願っています。

次に、「幸せ」の語源を紹介します。「し」は、「する」の未然形で「やりがい」を意味します。「あわせ」は、「合わせる」の未然形で「つながり」のことです。ですから、「幸せ」とは、人とのつながりを通して、やりがいを感じる「貢献して得られる喜び」ということです。皆さんのこれからの人生に幸あれと願って、私からのミニ授業とします。

保護者の皆様に申し上げます。小学校から9年間、毎日、お子様の健やかな成長を願い、心を砕いてくださったことと思います。本日のお子様のご卒業は、思い入りのものがあると感じ、ここに改めてお祝いを申し上げます。PTA活動においても「常に子どもたちのために」を理念とし、これまで本校の教育に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、高い席からではありますが厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓の皆様には今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さんの入学とともに着任した私は、皆さんが3年間の素晴らしい成長をした今の姿が誇りでもあります。教室前の廊下に掲示された3年間の学級・学年旗に染みこんだ仲間や先生方との思い出を振り返りながら、この学び舎を巣立って行ってください。

藻岩中学校の第77期同窓生として、皆さんの夢や希望があふれる前途を祝して式辞いたします。

令和8年3月13日

札幌市立藻岩中学校 校長 富川 浩

卒業生答辞

卒業生代表

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じる今日、私たち77期生は卒業の日を迎えました。本日は私たち卒業生のためにこのような素晴らしい卒業式の場を用意していただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中ご出席くださいました、ご来賓の方々、先生方、保護者の皆様、そしてこの日のために準備して下さった在校生の皆さんに、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

真新しい制服に身を包み、期待と不安もあった入学式から早3年。この3年間私たちは学習や部活動、たくさんの行事を通して、多くのことを学び、大きく成長することができました。

1年生では、新しい友達との出会い、初めての行事、全てのことが新鮮で、楽しくて、これからの中学校生活に期待を寄せ、先輩たちに支えられながら、3年後、みんなどうなっていくだろう、そんなことを思っていました。

2年生になると、初めて後輩という存在ができ、部活動や委員会活動など、いろいろな場面で、先輩としての姿を見せていきたいという気持ちが芽生えていきました。

そして、いよいよ3年生。待ち望んでいた修学旅行は、中学校生活で一番の思い出ともいえる最高に楽しい時間でした。JRでの移動時間、トランプで遊んだりお菓子を食べたり、他愛もなく友達と話す時間や学年みんなで盛り上がった学年レク。どこを切り取っても楽しかったといえる、2泊3日をみんなと過ごしたことは一生の思い出です。私たちの学年は、1年生の頃から、みんなで何かを作り上げる活動に、いつも明るく楽しく取り組んできたと思います。それは、日々の活動の中で学年として成長し、この学年はみんなで協力できるという自信がついていったからだと思います。

そして最後の文化祭。今までとはなにか違った、いつもの明るく楽しくという雰囲気に加え、真剣さが増し、みんなで成功させたいという学年全体の思いが最後まで途絶えなかった、最高の文化祭になりました。その集大成が学年合唱だったと思います。

3年生になると先生方から、行事など、全てに「最後」という言葉がついてくる、ということを知り、より一層、受験生という自覚が強くなっていったことをよく覚えています。

部活も一段落終えた秋頃、ふと友達と言った「このクラスと過ごすのもあと少しだね」この言葉を聞いたとき一気に卒業というものが近づいていることを実感しました。新たな高校生活への期待と同時に、このクラスと、この学年と一緒に過ごす時間のカウントダウンが始まっている気がして、今はこんなに楽しい時間でも、いつか終わってしまうという寂しい気持ちにもなっていました。

3学期になると、学年全体が一気に受験に向かう空気感になっていき、いつもの授業にも何か緊張感が伝わってくるような、不安が消えないような気持ちにもなりました。それも学年みんなで支え合って乗り越えてきたと思います。

そんな私たちの学校生活を支えてくれた先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。勉強に部活動、人間関係、たくさん悩んでいた私たちに先生方は常に前向きに寄り添ってくださり、私たちが選んだ道信じ、実現できるように支えてくださいました。そのおかげで、3年間何事にもめげずに、卒業の日を迎えることができました。3年間ご指導くださり本当にありがとうございました。

そして15年間、温かく見守って下さった保護者の皆様に心より感謝しています。日々思い悩む時期もあった私達を温かく見守り、部活動や習い事の送り迎えをしてくれたり、勉強のサポートや励ましの言葉、私達を一番そばで支えてくださいました。それが3年間走り抜ける原動力となりました。これからは自ら新たな道に向かって進んでまいります。今以上に心配をおかけしてしまうと思いますが、私達なりに精進していきます。

これからもどうぞよろしくお願いたします。

最後に、3年間一緒に歩んできたみんなにはとても感謝しています。日常の会話、休み時間、一つ一つが大切な思い出です。決して3年間の全てが楽ではなかったかもしれませんが、それでもここまで乗り越えられたのはみんなのおかげです。3年間本当にありがとうございます。

このあと私たちが歌う合唱曲「群青」には、「困難な状況下でも、希望を捨てず強く生きる、そしてまた会おう」というメッセージが込められています。これから先、私たちはそれぞれの道に向かっていきます。その途中で、つまづいたり、転んでしまうこともあると思います。これから様々なことがあっても、今まで支えて下さった方々への感謝の思いを胸に、また、この3年間仲間と共に歩んだ思い出や今までの経験を糧に藻岩中学校の卒業生として、胸を張って力強く一歩ずつ進んでいきます。

結びになりますが、今までの私たちの学校生活を支えて下さった全ての方々に御礼申し上げますと共に、これからの藻岩中学校の益々の発展を心よりお祈りし、答辞といたします。



紫陽花